



ハーフマラソンの部で、スタートの合図で一気に駆け出す選手の皆さん

賢治の里を駆け抜ける
5月6日、日居城野陸上競技場を発着点に第2回イーハトーブ花巻ハーフマラソン大会が開かれました。
種目は、ハーフマラソン(21・0975キ)、10キ、3キの3部門。青空が広がる中、県内外から参加した1148人のランナーが、沿道の声援に励みようと懸命にゴールを目指し、賢治の里を駆け抜けました。
当日は、花巻南高校出身の那須川瑞穂さんがゲストランナーとして出場したほか、アニメのキャラクターに扮した選手も登場し、大会を盛り上げました。



生後6カ月から1歳6カ月までの豆力士が、泣いたり笑ったりのかわいらしい取組を繰り上げました

豆力士泣いたり笑ったり
第27回全国泣き相撲大会は5月3日から5日までの3日間、東和町北成島の三熊野神社で開かれました。
国内は北海道から徳島まで、米国からの参加も含め、920人が出場。親方に抱えられて土俵入りした豆力士たちは、「ヨオツ、ヨオツ」の掛け声とともに好取組を繰り広げました。
勝負は泣いた方が負けのルール。「泣きだし」「ほほえみ返し」「しらんぷり」などユニークな決まり手が続出し、会場の笑いを誘っていました。



子宝などを願い、ご神体を洗い清める参加者の皆さん

ご神体洗い清め子宝祈願
大沢金勢祭りが4月29日、湯口の大沢温泉で開かれました。
同祭りは、子宝や安産、縁結びに御利益があるとされる同温泉金勢神社のご神体「金勢さま」を洗い清める催し。43回を数える当日は、青空と満開の桜の下、行われました。
同神社仮宮の前での神事や広場での神楽奉納などに続き、金勢さまを露天風呂へ移動。大勢の観客が見守る中、県内外から参加した女性12人が、湯船に漬かった金勢さまにまたがったり、タオルでこすったりしながら、子宝や安産を願いました。



腕を何度も上下に動かし、縄文時代の火起こしに挑戦する参加者

縄文時代の暮らしを体験
縄文弓矢・火起こし体験が5月5日、花巻市博物館で開かれ、参加した児童16人が、縄文時代の暮らしを学びました。
このうち、火起こし体験では、木製のきりを板にこすり付け、摩擦熱で火を起こす方法に挑戦。子どもたちは、焦げたにおいとともに赤い火種が見えると、歓声を上げて喜んでいました。
参加した島飛翔さん(矢沢小5年)は、「なかなか火が付かなくて大変だった。機械がないのに火を起こしていた縄文人はすごいと思う」と笑顔で話していました。



参加した皆さんは、田瀬湖の周辺で一生懸命ごみを拾い集めました

田瀬湖の環境を守ろう
第2回田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会は4月27日、東和B&G海洋センターを出発点に田瀬湖周辺で開催されました。
本市と遠野市を中心に県内各地から約200人が参加。田瀬湖沿いを徒歩や車で移動しながら、空き缶やプラスチック容器、古タイヤなどたくさんのごみを拾い集めました。清掃活動に汗を流した後の川柳大会では、ごみ拾い体験で感じたことを題材に句を作りました。
参加した皆さんは、体と頭を使って田瀬湖の環境保全に理解を深めました。



来場した皆さんが熱心に見詰める中、大償神楽の演目が次々と上演されました

大償神楽「春の舞」を堪能
早池峰大償神楽の公演「春の舞」が4月27日、大迫町内川目の「神楽の館」で行われました。
「四人鳥舞」を皮切りに、「岩戸舞本式」「手剣」「悪神退治」など10演目を次々と上演。色鮮やかな装束や面を身に着けた舞い手の熱演に、会場から大きな拍手が湧き起こっていました。
県内外から訪れた観光客や神楽ファンなど約70人は、ユネスコ無形文化遺産に登録されている優雅な伝統の舞を心ゆくまで味わいました。